

題字 足立区長 近藤 やよい

## 足立区民生・児童委員協議会だより

発行

足立区民生・児童委員協議会  
会長 中田 貢弘  
編集 広報部会  
発行日 2009年3月1日  
〒120-8510  
足立区中央本町1-17-1



西伊興小 5年 椎名祐一郎 作

### 目次

東京都民生委員大会	2
民生委員OB会	3
子育て応援団	4
人権宣言	5
心の健康	6
介護ってなあに	7
人命救助の限界 に挑戦	8

## 「東京都民生児童委員連合会長感謝状」をいただいて

### この経験を職務に生かして

私は昨年、感謝状をいただきました。この4年間、民生委員の皆様とのお付き合いで得た財産は、役所の中だけでは分からない地域の情報、課題、人間関係の築き方を学んだことです。この経験を、これからの職務に生かして足立区へ還元して行きたいと考えています。たくさんのご指導・ご支援ありがとうございました。



久米浩一 民生係長

### 皆様のお陰です

日頃より、民生委員の皆様には大変お世話になっております。私は民生係にまいりまして3年になります。この度、11月26日の東京都民生児童委員大会において感謝状をいただきました。これも皆様のご指導のお陰でございます。誠に有難うございました。今後とも変わらぬご支援をくださいますよう宜しくお願いいたします。



船水江里 主任主事

### 「氣力」を糧に

多くの民生委員の方々と知り合いになったことは私にとってかけがえない財産です。皆様に教えていただいたことや「氣力」を糧に、今後も精進してまいります。決して諦めることなく、一歩ずつ前へ進んで行こうと思います。60回大会で石原都知事のご尊顔を拝し感謝状をいただけたことは良い思い出です。



近藤博昭 主査



# 第62回東京都民生・児童委員大会

11月26日、第62回東京都民生・児童委員大会が文京シビックホールで開催されました。式典は国歌斉唱で始まり、平成19年9月より翌年8月末までの間にご逝去された民生・児童委員29名に対する追悼の黙祷がありました。民生・児童委員信条を唱えた後、主催者挨拶、表彰状贈呈147名ほか所管職員、関係機関、団体職員32名の受賞があり、足立区では17名の受賞でした。続いて主催者代表、ご来賓の挨拶、被表彰者代表の謝辞、議長団による大会宣言案が足立区民生・児童委員協議会会長 中田貢弘の朗読により上程しました。その内容は「地域におけるさまざまな福祉課題に対応していくためには行政・地域・関係団体の3つの力を生かしより効果的、効率的な施策を推進していくことが重要である。特に地域においては住民が主体的に関わり支え合いを創出し、充実していくことが求められ、住民と関係機関、行政との架け橋となる民生・児童委員の役割はますます重要となっている。これらの期待に応えるため資質の向上を心がけ、この意義と重責を再認識し、地域福祉の推進に積極的に活動する」との主旨で、満場一致で採択されました。

2部は恵泉女学園大学院人間社会学部教授大日向雅

美氏による記念講演「子育ての心と向き合う」でした。

地域における若い母親への子育て支援は重要な課題と考えています。子育て、世間の仕組みについて悩みを持つ母親は沢山います。育児の仕方、世間の仕組み、心の持ち方を真剣に悩み、孤独といった状態で考え込むことが多いとも言われています。世代間のギャップにより価値観、思考が変化していると考えられます。一方、若い母親が子どもの頃、家の手伝いをさせられなかったなど世間に対応する訓練を持ち合わせなかったことは否めません。わからないことは教え、批判は加えず、悩む母親の支援に地域がバックアップすることは大切なことです。



▲宣言文を朗読中の会長・中田貢弘

(花畑地区 細井力造 記)

## 大会宣言

- 多様化する福祉課題に取り組むにあたっては、住民や関係機関と幅広く連携し、高齢者・障がい者を含めたすべての住民が地域における支え合いを大切にしながら安心して住み続けられるまちづくりに貢献する。
- 個人情報と人権に配慮しながら住民の気持ちに寄り添った相談、情報提供に努め、必要なサービスを利用できるよう支援する。
- 虐待や犯罪などから子どもを守るため子育て家庭との交流を積極的に進めるとともに、多くの住民や関係機関と協働して子どもが健やかに成長できる環境づくりを推進する。
- 期待される活動に対応できるよう民生・児童委員協力員との連携を深めるなど、委員一人ひとりを支える民児協の組織的な活動の充実を図る。

右宣言する。

(敬称略)

## 東京都表彰規則による表彰

厚生労働大臣表彰	宮田壽美子	全国社会福祉協議会会長表彰	中島千代
永年勤続民生委員・児童委員表彰	島田晴子	東京都社会福祉大会会長表彰	加藤喜代子
東京都民生・児童委員大会表彰			
規則表彰在職20年以上	城戸美香子	藤井 操	本山敬子 相川輝子 細井力造
特別功労在職17年以上	林喜子江	山田芳枝	遠山みな 中田輝子 宇佐美和子 毛利静代
一般功労在職10年以上	小菅 實	村越 茂	鶴飼政次 ※岩井賢一 ※は退任者
足立区表彰	藤本享子	清水千鶴	浅井ちよ子 宝谷壽子 奥倉勝己 平田幹明
在職15年以上の方	宮田房子	内田 豊	山本裕子 吉田忠司 西本昭志 豊田桂子
	安藤順子	石井 幸	北角紀子 横田満子 浅古紀久子 柘植敏子
	安岡忠雄	小池浩子	横井富子 星野雅司 川原靖子
	村越初恵	佐藤篤子	榎本紋子 須賀善一 石井 彰



# 祝

## 厚生労働大臣表彰 宮田壽美子第三合同会長



このたび図らずも私のような者が厚生労働大臣賞を受賞できましたことは、誠に身に余る光栄でございます。これも行政の皆様のご指導はもとより諸先輩の方々、並びに地区の皆様のご支援の賜と感謝申し上げます。

思えば20数年前、民生・児童委員の委嘱を

受け、その間福祉医療も時代と共に大きく変わりました。少しでも地域の相談相手のお役に立てばと思い活動してまいりました。これを機に微力ですが、なお一層努力してまいりますので、皆様のご指導ご支援をよろしくお願い申し上げます。

## 足立区民生・児童委員協議会 OB 会発足

好天に恵まれた平成20年11月29日、区役所内のレストラン・ピガールにて81名（行政18名）の出席のもとOB会が開催されました。総会で発起人のひとりである前職務代理の関根真教さんが初代OB会長に選ばれ、今後の抱負を含めた挨拶がありました。

来賓として、近藤区長、くじらい区議会議長から、「日ごろの民生活動への感謝と、今後OBとして新しい視点でご意見番となっただき、力を貸していただきたい」と祝辞をいただきました。民生係からは役員任期が3年などの会則の説明があり、併せて各役員の紹介がされました。総会后、中田会長から温故知

新のこともあり、同会発足への祝辞がありました。懇親会で発足を祝う乾杯があり、各テーブルで出席者は歓談しました。会の途中で、休日にもかかわらず出席していただいた行政の方がたの紹介もなされ、終始なごやかな交歓の場となりました。

(江南・新田地区 楠美順二 6地区 森春枝 記)



▲栗原北小4年 林 礼菜 作

## 民生・児童委員と教育委員会との意見交換会

11月5日・午前10時半から約1時間ほど、区役所8階特別応接室で、3年ぶりに民生・児童委員と教育委員会との意見交換会がありました。今回は、小学校校長会2名、中学校校長会2名の校長先生も出席されました。民生・児童委員は、協議会会長、各合同会長が出席しました。教育委員長より学力問題もさることながら、生涯学習において、学校・地域・行政による統合的取り組みの必要を感じると意見があり、学校側からは現場の状況



や取り組みについて話されました。どこの学校も、学校にいるときの子どもたちの状況はある程度分かるが、家庭、地域での子どもたちの様子は全くわからないと言われました。そして、生徒の3分の1になるくらい一人親の家庭が増えるということでした。そんな中、一つの取り組みとして、現在、26校で「キッズばれっと」が行われている、また、「生徒支援地域連絡会」（正副校長、相談員、PTA、青少年委員、民生・児童委員で構成）が年1～2回行われているとのことでした。

戦後、私たちはあまりにも、学力重視で、学校教育（塾も含め）に任せっきりにし、プライバシーといって変に個人主義を主張し合い、家庭・地域の生活環境など見向きもしてこなかった結果が、今問われているのでしょう。地域で、子を持つ、持たないにかかわらず、関わりたいもの場を持ちたいものです。

(東栗原地区 北村信也 記)

## とびっくす

### 第11地区対 タウン・クリーン・ウォーク

9月7日、心配された天気にも恵まれて、タウン・クリーン・ウォークが行われました。11地区管内南側（約4km）を歩きながら、ゴミ拾いをしました。ベルmont公園を出発し、各休憩場所は、小・中学校をお借りしました。休憩所では、俳句づくり、大豆や小豆を箸でつまむゲーム、ファミリー・ターゲット・ボール、パズル、缶ボウリングなど、いろいろなゲームをしました。ゴミ拾いも得点になり、優秀なチームには賞品が贈られます。参加者は老若男女を問わず、敬老会や、仲良し友達グループ、中学の生徒さんと引率の先生など。なかでもおばあちゃんと孫のチームはとてもほほえましく感じ

られました。今日一日、地域をきれいにさせていただき、ありがとうございました。日ごろから町をきれいにするという意識が高まったことと思います。



(11地区 梅田伍子 記)



足立区の子ども施策のひとつとして、放課後の子どもたちの安心、安全な居場所を提供する事業「あだちキッズぱれっと」が7月1日よりスタートしました。実施には保護者、学校、地域の方々のご理解を賜り、担当された区関係各位の献身的なご指導に感謝を申し上げます。併せて実行委員、見守りスタッフの積極的な支援と協力を得ました。

本校は区内小学校で一番広い校庭でそれを遊び場としました。担当スタッフの見守るなか、遊具では一番評判の良い竹馬をはじめ、ストライクアウト板、一輪車、ボール類、なわとび、ベーゴマ、竹とんぼ、けんだま、お手玉等で、全学年で一日平均130名程度が遊びに参加、色とりどりの子ども

たちが元気な輝きを見せてくれます。

校庭が大きな「パレット」となり遊具の順番を待つ子、教えてあげる子など学年を超えた交流も見られます。社会性、自主性を学ぶことも出来そうです。

子どもたちの元気な声、躍動感には私達も若いエネルギーをもらっています。地域の次代を担う青少年の健全な成長を共に慈しみ見守ってゆきたいと思っています。本事業が多くの小学校で実施されることを願っております。

(佐野地区会長 相澤明義 記)

※相澤会長は辰沼キッズぱれっとの実行委員長です。



▲潤徳女子高等学校提供

第9回 足立凧まつり ～秋空にゆうゆうと……～

今年も荒川の虹の広場で足立凧まつりが開催されました。そもそも区内の小学生が夏休みに親子で作った凧と一緒に河川敷で揚げようということから始まりました。例年は9月初旬に開催していましたが、今年は10月4日の開催になりました。

午前中は微風で凧上げにはちょっと苦戦でした。しかし、さわやかな秋晴れに恵まれ、小学生の駒凧、連凧や新潟県の白根から来た大凧も、昼からの風に乗って、秋空にみごとに揚がりました。

凧上げに参加した小学生以外にも千寿第五小の祭囃子連、中川北小の六起太鼓、千寿桜小の吹奏楽の演奏が会場を盛り上げ、群馬県の宮城小と足立区立宮城小との交流会も行われました。民生委員の皆さんのボランティアのほかに足立東高校の高校生ボランティアも

26名が参加。地域や団体、PTAなど、様々な立場の方々の協力により、親子が楽しめる充実した催しとなった感があります。

区長賞をはじめ、凧の揚げ方や凧の絵のデザインなどで、6つの賞が選ばれました。

(5地区 北島小夜子 記)



赤い羽根共同募金



赤い羽根共同募金本年度実績  
1,256,226円

青井中学校

さみだれに強く構える二条城

三年 五十嵐司

草刈り後どころがる蟬の殻

三年 池田湧磨

宿題を終えたら蟬が消えていた

二年 星川拓哉

肩ならべ 祖母に教わる笹すまき

二年 杉谷美由紀

白球がガササと見える炎天下

一年 丸山健太

蟬のまてニスコートにはわがえる

一年 池田凜太郎

中学生俳句コンクール



## 子育て応援団

キラキラ☆笑顔☆新発見～

みんなであそぼう！ つくろう！ さがそう！！～

足立区社会福祉協議会あいあいサービスセンターでは、子どもの保育園等の送迎や預かりなどを行う「ファミリー・サポート」と子育て中の親子の交流の場づくりの「のびのび親子ひろば」の子育て支援事業を実施しています。

昨年の8月24日シアター1010アトリエにて開催した「キラキラ☆笑顔☆新発見～みんなであそぼう！つくろう！さがそう！！」では、ファミリー・サポートの会員やひろばのスタッフ間の交流と事業を一般区民向けに広く周知する目的で、合同の全体交流会&子育て支援事業として実施しました。ファミリー・サポート・センター事業のPRでは、提供会員と一緒に昔懐かしい折り紙やあやとり、紙ひこうきづくりなどの伝承あそびで楽しいひとときを親子で過ごしました。また、リサイクルコーナーを設け、使わなくなった子ども服やぬいぐるみなどの交換会も

併せて行いました。

のびのび親子ひろば活動のPRでは、各ひろばのスタッフが日頃のひろば活動で行っているパネルシアターや手遊び、動く紙芝居などのひろば活動を参加・体験していただきました。

開催当日は雨天にも関わらず160名超の参加があり、昨年に引き続き継続的な交流会の開催へ向けての励みとなりました。

(あいあいサービスセンター 山本武史氏 記)



## 世界人権宣言・人権擁護委員制度60周年記念

## 第15回子どもたちの人権メッセージ発表会



▲古千谷小1年 阿部 颯 作

今年は足立区にて9月13日午後1時から4時まで西新井文化ホールで開催されました。23区及び島しょの小学校の代表が身近にある人権問題について、自分の考えをみんなに問いかけ、希望ある生き生きとした楽しい

毎日を過ごすにはどうしたらよいかというテーマで内容を発表しました。開催にあたり、人権について2千余の

作文の応募がありその中で、29名の発表がありました。

足立区から発表されたメッセージは「個性」「わたしの思いやり」「まわりの人にやさしくしてもらったこと」「相手の立場で」で、一人3分～4分間で、皆きちんとわかりやすく話していました。いじめのこと、友達の大切さ、これからも助け合って歩きたいという気持ちが会場に広がりました。司会の大役をつとめた島根小学校の2名の6年生、発表を聞いてまとめを話された中川北小学校の6年生をはじめ、発表された皆さんに立派でしたと拍手を送ります。

私も参加させていただき、大きな感動と感謝の気持ちをいただきました。ありがとう。よい勉強をさせていただきました。(江南・新田地区 楠美順二 記)

## つきたて最高！ 収穫祭（もちつき）

みんせいかわらばん

10月25日午後1時、舎人第一小学校校庭で、全児童392人の願い事を張り付けた風船が空高く飛び、「ふえすた2008」と銘うった、収穫祭（もちつき）が開幕されました。5年生を中心に、学校の屋上の船で、5月20日田植え、9月17日稲の刈り取り、10月3日脱穀、13kgのもち米を収穫、それに90kgのもち米を足して都合103kgの餅米を、境川部屋のお相撲さんに参加していただき、全児

童が4台の臼と杵で餅つきを体験しました。

この日は近隣の老人会の皆さんをはじめ来賓の方々をお招きし、つきたてのお餅が振舞われました。主催のPTA、開かれた学校づくり協議会の皆さん、全児童のみなさん、柔らかいお餅に皆「ニコニコ」でした。

(14地区 森脇久仁子 記)



民生委員制度創設90周年記念事業スローガン

広げよう 地域に根ざした 思いやり



当作業所は、西新井本町二丁目にある精神障がい者の通所施設です。主にアルコール依存症・統合失調症の方々と、現在26名が在籍し、ミシンを使った自主製品づくりや割り箸袋入れの作業をしています。平均年齢は50歳代半ばで、男性が6割を超えています。作業の売り上げは、それぞれができる範囲で努力し、みんなの力を合わせた結果のものなので、作業内容や能力に関係なく平等に分けています。現在は1時間120円です。

地域の環境

当作業所のすぐ近くには、精神障がい者のグループホームである「クララハイツ」があり、6名の方が共同生活をし、世話人の力を借りながら、一人暮らしをするための練習をしています。また、同じ町内には江北保健総合センターや大石記念病院もあり、心の病をもった方々にとっては、心強い地域であり、住民の

方々の理解も深い、あたたかい地域でもあります。

今思うこと

「健康である」ということは、「病気でない」ということではないと思います。「病を抱えながらも、その人らしく毎日

を過ごすことの大切さを、痛感する日々です。今、障害者自立支援法という社会の流れの中で施設の運営が大きく変わらざるを得ないときを迎えています。変えずに守るべきは守り続けていきたいと思っています。(NPG法人ベルの会共同作業所 9地区 市川久美子 記)



▲舎人第一小4年 荻原麗奈 作

思春期の病名について

最近では統合失調症について、本やTVそしてインターネットなどを通して色々な情報が手に入るようになり、昔とくらべて精神科の敷居は低くなってきました。そのため思春期の方でも比較的早い時期に病院やクリニックに相談にくることが多くなったように

感じます。病院を受診すると病名がつきますが、若い頃は一見統合失調症と似たような症状(幻覚・幻聴・被害妄想)がみられても、実はそれは思春期危機という、その年代独特の混乱であり一過性の



統合失調症の場合など

ものということがあります。

また、人格のかたまっていない思春期という時期に統合失調症の診断をつけることはとても難しく、慎重さが求められます。病名がつくことで本人は絶望し周囲から疎外されたような気になり、どんどん状態が悪くなる可能性もあります。もちろん周囲の人にとっては病名がつくことで今まで理解しにくかった行動の原因がわかり、少し冷静になることができることもありますが、一方で彼らの訴えもすべて症状として理解してしまうこともおこりがちです。

思春期の場合は病名に振り回されず、じっくり話を聞き、まず誰が困っているのか問題を整理し、目の前の彼らに対して自分ができることは何か? ということを探っていくことが大切だと思います。

(東京足立病院 新垣多恵心理士 記)

レスポアール(希望)

心の病を抱えている方々の働き場の場として、平成6年から、行政よりの補助・指導を受けて、通所による共同作業所を開設しました。工房では、クッキー、パウンドケーキを作ったり、喫茶店ではお客さまと接することで、社会とのコミュニケーションの訓練になります。縫製品のポットマットは小さな布の組み合わせの手芸品。その作りと色使いは折り紙のように鮮

やかで、ポットを敷くことはもちろん壁飾りにしても素敵です。その他に刺し子、季節ごとのオリジナルグッズ、クリスマス・リース、イースター・エッグなどあります。レスポアールはフランス語で「希望」。これからも心を込めて、確かなもの作りをしてゆくことと思います。

(東綾瀬地区 河邊セツ 記)



▲足立入谷小4年 皆木優花 作



足立あんしんネットワークの研修会で、孤独死についてパネラーによる報告がありました。数年前、松戸市で白骨化した死体が3年経過して発見されました。その間家賃等は自動引き落としされていました。誰も気づかなかったのです。今の社会において孤独死はどこでも起こることになってしまいました。

足立区において、見守りの一つの手段である“おはよう訪問事業”は健康飲料の配布が尊い命を救い、成果をあげているようです。孤独死を深く掘り下げると、以下のことが重なった時に起こることがわかりました。

- ①一人暮らし ②日常挨拶をしない ③周りに関心を示さない ④地域の催事に参加しない

聖徳大学高尾先生のお話によると、3つの縁が孤独死ゼロに重要な役割を果たしているとのことでした。

それは家族親族の縁、友人職場の縁、地域の縁です。しかしこの中で、会社の縁は退職と共に薄れ、親族とも離れて住んでいる場合が多いのが実情です。残るは地域の縁ということになります。これからの地域活動において、とりわけ女性が大きな役割を果たし、カギを握るとのお話でした。

私たちはプライバシーというものの代償に大きなものを失いつつあります。単身高齢者が1人であるのは、1日12時間との統計があるそうです。そのようなお話を伺った時、微力ながらその中の1時間でも近くのお年寄りを訪ね、昔話を聞いてみたいと思いました。

(10地区 川島恵美子 記)



### 千住仲町会 熟年いきいき部会と連携した取り組み

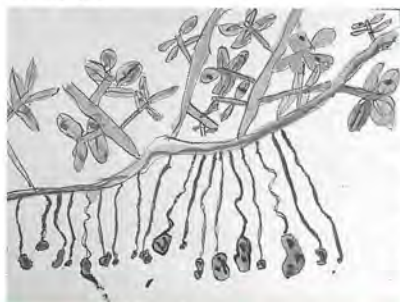
千住仲町会は、高齢者が安全で安心して生きがいを持って暮らせるような支援を目的に発足した熟年いきいき部会（千住仲町のいち部会・平成19年1月発足）と連携し、地域の高齢者の支援活動を行っています。

に対応できるよう日常からの隣近所つながりを持つことが目的です。町内を3地区に分け、75歳以上の独居者を対象として、民生委員を中心とした部会員による訪問活動を行っています。昨年に引き続き、今年も千住仲町会が協力し千住仲町会主催のちびっこ縁日に独居者をお誘いしています。大変喜ばれており、好評です。

#### 熟年いきいき手帳作成・配布

熟年いきいき部会で勉強会を重ねながら、高齢者の皆さんの便利帳を作成し、平成20年3月、千住仲町会が協力し、地域部長、班長を通じて全戸配布いたしました。

(3地区 片山勇 記)



#### 交流会

食事会、映画鑑賞会、歌や簡単な体操、おしゃべり等、高齢者の皆さんが集まって楽しめるような内容で、年2回開催しています。

#### 声かけ活動

いざという緊急時

▲古千谷小5年 長沼世菜 作

### 歯なしのはなし

シリーズ第2回

私は子育ての過程で、砂糖の入ったガムだけは食べさせませんでした。虫歯をつくりやすい食品と教わったからです。ある日、長男が幼稚園に通うようになり近所のお友達と遊んでいる時、その子がガムを手を持ち食べながら遊んでいたようで、ガムを知らない私の子の行動はその子が持っているガムを奪い取ってしまったのです。その後の子育ての中で我が家では“食べてはいけない物”はいっさいなくなりました。大切なことは管理が適切にできること。食べた後のうがいや歯磨き、寝る前のしっかりした歯磨きを怠らないことが虫歯予防の秘訣です。長男はすでに成人しましたが、今でも虫歯は1本もありません。

何年か前より、スーパーのレジ前や食品棚に天然素

材のキシリトールやPOs-Ca（ポスカ）などを甘味料に使用したガムを見かけます。この甘味料には歯垢の生成を抑え、細菌の数を減少させたり、唾液が酸性に低下することを防いだり、歯の石灰化を進め硬い歯にするフッ素とおなじような働きがあります。こんなガムが昔からあれば、私の子は人の物を略奪しなくてすんだのと思います。しかし、歯磨きを怠ると細菌の攻撃が勝ってしまうことも忘れないでください。

(山田京子 歯科衛生士 記)



▲西新井第一小5年 菅谷 葉 作

足立区は活動記録提出100%継続中です



## 人命救助の限界に挑むハイパーレスキュー

足立区新田に東京消防庁で4番目に設立された第6消防方面本部消防救助機動部隊があります。最近の出動活動は中国四川大地震、宮城県大地震、洞爺湖サミットの7日間テロの警戒に16名が出動しました。阪神・淡路大地震の教訓から、通常の消防力では対応が困難な災害に対し、迅速に対応するために生まれた部隊が消防救助機動部隊（愛称、ハイパーレスキュー）です。部隊員は高度専門的な技術・能力を有する隊員と、大型重機や最新の救助装備で編成された自己完結型のレスキュースペシャリスト部隊です。最近、首都直下地震の発生危険が年々高まるなか、卓越した知識・技術を有する隊員と、充実した装備により通常の部隊では対処困難な大規模、

また特殊な災害にも対応することが可能です。あらゆる災害において、都民の負託に応えます。近年多発する集中豪雨や台風による水害への対応力も備え、迅速な救助活動を実施するための車両、資機材となる大型プロアー搭載車、およびウォーターカッター搭載車も、第6本部に初めて配備されました。



(17地区 石鍋昭男 記)

民生委員・児童委員宛

## 災害時一人も見逃さない運動

### 伝統文化子ども教室 — 琴 —

7月19日、区立第十一中学校の和室に美しい琴の音が響いています。曲目は「さくら」。足立区では区民が身近な場所で文化芸術に触れる機会を作り、将来にわたって発展させていくために、小・中学生を対象とした伝統文化子ども教室を行っています。生け花、茶道、琴、囲碁、民謡などがありますが、その中の琴の教室を見学させていただきました。



十一中の涼しい和室に近隣の小学生が多数参加していました。十一中の和室は広々としており、水屋もあり、琴も沢山用意されていてクラブ活動の充実ぶりが伺える学校です。緊張気味の生徒たちも足立三曲協会会員の先生の優しい指導のもとに、爪のはめ方、座り方、音の出し方そして曲目へと進んでいきます。譜面を見ながら真剣に取り組み思いがけない音に出会ったり、それでも2時間も稽古するうちにみんな揃って「さくら」が弾けるようになりました。初めて触れる楽器なのに、上達の速さには驚かされます。先生の伴奏に合わせて素晴らしい合奏になりました。日本の伝統文化の琴の響きは暑さをも忘れさせるものがあります。生徒たちは夏休みから秋にかけて10回ほどの稽古を重ね、11月30日足立三曲協会「秋の定期演奏会」に出演しました。

今年もまた文化子ども教室が開催されると思います。小・中学生の皆さん、参加されてはいかがでしょうか。

(4地区 大久保義子 記)

さくらニュース

編集後記

今朝のニュースで、新橋のサラリーマンへのインタビューを見ました。仕事のあることが、ありがたいと答える人。給料が下がっても、笑顔を絶やさない妻への感謝を話す人。内定取消し、リストラ。この世界的不況に、個人の差し伸べる手はあまりにも

無力です。そうした所に希望はないのでしょうか？ 経済的に豊かな時には、心が失われていくと嘆かれています。こんな辛い時代だからこそ、心を取り戻し、お互いに助け合えたらと切実に願っています。

(9地区 秋本雅信 記)

小学生掲載絵画および中学生詩歌、俳句の依頼は、  
第一合同から第七合同の小・中学校に順番にお願いしております。

■皆様の原稿を募集いたします（原稿は未発表のものに限ります）。次号発行予定日 平成21年7月1日

●原稿に関しては紙面の都合がございます。事前に地区広報委員にご相談ください。

広報部会

部会長	会計	校正	渡辺照美	北村信也	清水千鶴	江川せつ子
高野 季	川島恵美子	田中 榮一	楠美順二	校正委員	河邊セツ	北川富美子
副部会長	編集	編集委員	阿部美代子	下田尚保	井上みよ子	鈴木重子
宮本勝男	細井力造	池田信江	石鍋昭男	大久保義子	杉浦幸子	
		森 春枝	山下節子	大城忠男	秋本雅信	